リバーサイド茶倉（松阪市（飯南町））

「地域にあるもの（自然・特産品・人）を活かした、住民参加の里づくり」

里の概要

飯南町は三重県の中央部櫛田川の中流にある。緑の山々と茶畑、棚田、櫛田川が調和した自然豊かな町。平成１７年に近隣市町と合併して松阪市となった。

柿野地区は、石垣の美しい「深野のだんだん田」があるほか、松阪牛の肥育が盛ん。粥見地区は全国茶品評会でも高い評価を受けている深蒸煎茶の産地として知られる。

里づくりのきっかけ

平成元年頃に町の事業で体験型宿泊施設「リバーサイド茶倉」が完成。地域住民も出資をして第３セクター「茶倉組合」が設立され、住民参加による宿泊施設の運営がスタートした。

里づくりの経過

昭和 60 年頃	町が森のオーナー制度を開始。約 20ha の森のオーナーとして、名古屋市などから 200 口以上が参加。現在でも、隔年に１回の森への招待イベントにより交流している。
平成元年～	バンガローやコテージなどからなる体験型宿泊施設リバーサイド茶倉がオープンし、地域住民も出資をした第３セクター「茶倉組合」が運営。 「茶倉牛まつり」「茶倉マラソン」など各種イベントがスタート。
平成 10 年	道の駅「茶倉」オープン。お茶や野菜などの直販と食堂を運営。
平成 13 年～	植林山が多い地域の中で、四季（旬）が見える風景をつくりたいとの思いで、里山づくりを開始。子供達と一緒に、もみじの苗木を植樹。
平成 15 年～	特産の深蒸し煎茶の粉末を練り込んだうどん「茶倉物語」を開発。 道の駅の食堂などで提供。
平成 17 年	合併に伴い「リバーサイド茶倉」が松阪市の施設となる。
平成 18 年	地域住民有志が「リバーサイド茶倉組合」を設立。指定管理者となる。
平成 18 年	広域連携のため、国道 166 号線沿いの交流施設のネットワーク「ネットワークルート 166」を結成。

現在の活動

地域住民がスタッフとして参加し、地域にあるもの（自然・特産品・人）を活かした、四季折々のイベントを開催している。

■宿泊施設

和室４室（本館）、バンガロー８棟、コテージ３棟

・食事は地域特産品を使った、お茶料理「もえぎづくし」、鮎料理「茶倉定食」など。

・宿泊客の希望で、牛の肥育農家や茶工場の見学ツアー、棚田の散策なども実施。

■四季折々のイベント

・お茶摘みイベント、ジョギング大会、クリスマスイベント

・水辺のカーニバル（七夕笹飾りコンテストなど。）

・牛まつり（地元農家が育てた松阪牛１頭をバーベキューで食べる。H18 は 256 人が参加。）

■道の駅「茶倉」

飯南町の山々、川、茶畑を一望できる高台にあり、リバーサイド茶倉への散策路もあります。お茶や野菜などの直売所のほか、深蒸し煎茶の粉末入り「お茶うどん」を提供する食堂も併設。

■里山づくり

植林山が多い地域の中で、四季（旬）が見える風景をつくりたいとの思いで、里山づくりに取り組み、もみじ苗木の植樹体験、しいたけ菌打ち体験などを実施。

活動のポイント

■住民参加

地域住民がスタッフとなり、アイデアを出し合って運営している。

■地域にあるもの（自然・特産品・人）を活かす

飯南町は、櫛田川、山々、棚田、茶畑など自然が豊かで、良質なお茶や松阪牛の産地としても知られている。ここにしかない「自然」「特産品」を最大限に活かしながら、地域の「人」を巻き込んで活動している。

苦労話

「人」が売りの施設なので「人」を育てることが大切。施設のスタッフには、「顔を覚えてもらえるようなおもてなしを。」「飯南のことをよく知って紹介できるようにしよう。」と話している。

将来の展望

・ 飯南町を知ってもらって、１回ではなく３回も４回も来てもらえるような体験メニューを増やしていきたい。また、子供の思い出に残るような体験メニューも開発していきたい。

・ 飯南町の情報発信拠点として、もっと、飯南町の魅力を紹介したい。

・ 近隣にも交流拠点が増えているので、点が線になり面になれるよう、広域連携に取り組んでいきたい。

連絡先

リバーサイド茶倉組合

住所：〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見 1084-1

電話：(0598)32-3223

URL：http://www.ciaotv.ne.jp/~chakra/

大杉谷自然学校（大台町久豆）

都市からの移住者が中心となり、地域の「ひと・自然」を活用したエコツーリズムを実践。

里の概要

大杉谷地域は、清流宮川の源流にあり、大台町内でも最も奈良県境に近い秘境である。日本有数の多雨地帯で、激しい雨により浸食された谷は深いＶ字型となり神秘的な景観を醸し出している。また、ブナの原生林など見事な自然が残っている。

四方を 1,000m級の山々に囲まれ、林業従事者が多い林業の町である。農地は少なく専業農家はいないものの、昼夜の気温差が良質の茶の栽培に適し茶畑が点在する。

里づくりのきっかけ

大杉谷地域は、大台町内でも過疎化・高齢化が特に進んだ地域であり、平成 11 年 3 月には、地域唯一の学校「大杉小学校」が閉校となった。環境教育をテーマに校舎を活用したいとの意向があった教育委員会と、「産業のないところに産業を起したい」と、自然学校の指導者養成講座での研修を終え、地域にＵターンした大西かおりさんの思いが一致し、平成 13 年 4 月、NPO が運営する「大杉谷自然学校」が開校した。現在、大杉小学校の２階の一部を NPO 大杉谷自然学校が利用し、１階は町営のデイサービス事業に活用されている。廃校を有効活用している事例として、三重県で唯一、文部科学省の廃校リニューアル 50 選に選定されている。

里づくりの経過

平成 13 年	大杉谷自然学校オープン。大西かおりさんが校長として就任し、北海道自然体験学校 NEOS（NPO 法人ねおす）の指導も受けながら、環境教育のプログラム組立や運営の基礎づくりを始める。
平成 14 年	自然環境系の団体や大学等への案内によりスタッフを募集し、大杉渓谷桃ノ山荘で 24 年働いた山歩きの第一人者である森さんと、神奈川からのＩターン池田さんがフィールドスタッフに就任。「大杉谷孫さんクラブ」や「山歩き」などの環境教育プログラムが本格始動。
平成 15 年	経理庶務専門のスタッフを募集。大阪から家族でＩターンした西村さんが内勤のスタッフとして就任。
平成 16 年	台風による豪雨災害で、キャンセル待ちが出るなど盛況であった大杉谷登山客が減少。一時、環境教育プログラムは停止したが、年明けには再開。

宮川に面し山に囲まれた自然豊かな環境に大杉谷自然学校はある。

現在の活動

大西かおり校長以下５名のフィールドスタッフ（うち２名が実習生）がインタープリターとなる環境教育プログラムを年間 130 本程度実施。「孫さん倶楽部」や「食育＆スローフードプログラム」など地元の方が講師を務めるプログラムもある。８割は県内からの参加者で、リピーターも多い。

■孫さんクラブ

地域外に出たお孫さんに大杉谷に来てもらうきっかけづくりとして始まった。大杉谷のおじいちゃんおばあちゃんが講師になり、大杉谷の民家で薪割りなど山里の暮らしを体験できるプログラム。

■食育＆スローフードプログラム

デイサービスで食事を提供している地元の主婦による郷土食研究会「せせらぎ会」と連携。「猟師料理に挑戦」などのプログラムで、家庭の食卓から消えてしまった旬の食材や昔懐かしい味を、楽しみながら学ぶことができる。

■大人のエコツアープログラム

■のびのびクラブ

水曜日の放課後に町内の４校に出張して自然学校を開催。

苦労話

- 大宮大台 IC から車で 45 分程度と立地条件が悪く、他県に同様の施設もある中で、集客には苦労している。
- 民間の助成金などを活用し、参加負担金を低く抑えて集客しているものの、本格的なプログラムのため人件費などのコストがかかっており運営面での苦労は多い。

活動のポイント

- 廃校、自然、地域の暮らし、おじいちゃん、おばあちゃんなど、地域の資源を活かしている。
- 都市からのＵターン者が校長に、都市からのＩターン者がスタッフとなり、地域の潜在力を引き出している。

将来の展望

- プログラムは完成しているので集客力を上げていきたい。
- H19 年夏に NPO 法人化を予定している。

連絡先

大杉谷自然学校

住所：〒519-2633 多気郡大台町久豆 199
電話：0598-78-8888
http://www.ma.mctv.ne.jp/~osn/

島の旅社（鳥羽市（神島、坂手島、菅島、答志島））

島の生活そのままが博物館～よその人にもぜひ知って欲しい

里の概要

鳥羽市には、神島、坂手島、菅島、答志島の４つの離島がある。市の人口の約２割にあたる４，７００人あまりの人々が暮らし、海と関わりながら生活をしている。

答志島は４つの中で一番大きい島で、周囲は２６．３ｋｍ、答志、和具、桃取の３つの集落を有し、人口は約２，９００人。伊勢湾の豊富な水産資源により漁業が盛んで、住民の多くが漁業に携わっている。島には長い間培ってきた豊かな自然や歴史文化がある。例えば、昔ながらの漁村の生活や味覚、細く入り込んだ路地が今も残り、島に住む人達の知恵や工夫が受け継がれている。

里づくりのきっかけ

鳥羽市において離島の活性化を目的に、市役所の若手の職員達がワーキンググループを作って、離島の資源の調査を行い、「島の旅社」のコンセプトを提案したのがきっかけ。平成１６年６月に地元の町内会長や旅館組合などの組織が構成員となり現在の「島の旅社」推進協議会が組織された。

島のことをもっと知りたいと、「島の旅社」推進協議会のスタッフ募集に集まった答志島の７人の女性達が中心となり、最初は答志島の生活のマップづくりに取り組むなかで、島のつきるところを知らない魅力にとりつかれ、よその人達にも島をもっと知ってもらおうと活動を繰り広げている。

里づくりの経過

H13 年度	「2005 年鳥羽市戦略プラン作成委員会」の下部組織として「2005 年鳥羽市戦略プラン作成委員会ワーキンググループ」が結成され、「島の旅社」のコンセプト作成。
H14 年度	答志島活性化 21 委員会に「島の旅社」コンセプトを提案。「答志島海岸線調査」、「私の選んだ文化財」の発掘を行う。
H15 年度	愛媛県弓削町、岡山県笠岡市へ先進地調査（7 月）。国土交通省との連携で浮島の磯観察ツアーを実施(8 月)。
H15.10 月	「島の旅社」設立準備会を立ち上げる。島の旅社モニターツアー「島人が手作りしたもてなしの旅　答志島」を実施。
H16.6 月	島民中心の組織「島の旅社」推進協議会を設立。8 月 31 日の「おいやれ行事」にあわせオープニングイベントを開催。
H16 年度	答志島イラストマップの作成。三重大学との共同研究を開始。「答志島・嫁さんの集い」の開催(10 月)。大阪の小学校の修学旅行の体験学習を協力(10 月)。「島人がもてなすウェルネスの旅(冬・春)の実施。
H17 年度	「路地裏つまみ食い体験ツアー」の実施(7～8 月)。「島・食の文化祭」の開催(10 月)。「島人がもてなすウェルネスの旅(秋・春)の実施。
H18 年度	「浮島自然水族館」をオープン(5 月)。ホームページをリニューアル。

現在の活動

■「島人がもてなすウェルネスの旅(秋・春)」　離島を舞台に２泊３日で行うウォーキングを主にしたイベント。三重大学と産官学連携により伊勢志摩ツアーズと共同で実施。H16 より開催

■「路地裏つまみ食い体験」　夏に島内の狭い路地裏を歩いて案内し地域の食をはじめとする文化に触れてもらうツアー。島人との会話などが楽しい。H17 から実施

■「浮島自然水族館」　干潮時に現れる磯へ船で渡して磯の生物を観察。春～夏季。H18 春から

■「島・食の文化祭」　離島４島合同イベント。我が家の日常料理を持ち寄る。H17 秋, H19 春に実施

■「海女小屋体験」　海女小屋で魚介類を焼いて食べられる。H17 から

■体験学習　子どもたちを対象に島のおじいさん・おばあさんがなつかしい遊びなどを教えて交流。

活動のポイント

■ 島が持つ豊かな財産と、ありのままの島の生活を来島者におすそわけしたい。そんな思いを込めて、島に住む人々の手で島の旅をプロデュースする。島全体で島を元気にすることを考える。

■ 島人の理解が得られないとできないことばかり。島人の暮らしを優先。漁業を主にして、その合間に行うという考え方が基本になっている。

■ これまで参加された方からクレームが一つもない。島人も「しゃぁねーなー」といいながら快く協力してくれる。経済価値からではなく心からの交流ができていることが理由だと思う。

苦労話

スタッフが７名と限られていて、なおかつ家業の忙しい時期が重なる時は、スタッフのやりくりが困難である。「浮島自然水族館」では、連日の炎天下での活動になり暑さで大変である。

浮島自然水族館の際に、参加者を磯に船で渡さないとならないが、人の運送にあたり許可を得ている船が少ししかなかったり、また、路地裏つまみ食い体験では、食品衛生法の関係から「海女小屋体験」を実施するのに苦労した。活動には様々な法的な規制をクリアしていく必要があり、仕方のないことであるが活動の足かせになってくる。

将来の展望

これまでは、答志島を舞台にして、こうした活動が可能か実験的な位置づけもある。平成１９年度からは、神島にも活動の舞台を広げようと考えている。

現在も、島の隠れた資源を使った新しい企画を検討しているところ。県からは、空き家を活用した事業の提案もある。

幸いなことに、スタートから数多くのテレビや新聞、雑誌などに取り上げていただき、ほとんど無料でＰＲができてきた。これまでの企画をじっくりとねって行きたい気持ちも強いが、今後も新聞、テレビなどのメディアに取り上げてもらうためには、新たな企画を出し続けていく必要がある。

県・市町に期待する支援の内容

行政の担当者が異動して新しい人になると、その人の熱意のあり方で活動がしぼんでしまうことがある。できれば、継続して真摯な関わり方をお願いしたい。

連絡先

「島の旅社」推進協議会　事務局

住所：〒５１７－０００３
　　鳥羽市桃取町２６３
電話：０５９９－３７－３３３９
　　（ＦＡＸ同じ）
URL：http://shima-tabi.net/index.html

ツヅラト峠を守る会（紀北町紀伊長島区志子）

古道の復活は、公民館活動から始まった。

里の概要

志子は、熊野灘に面する長島港から、国道 422 号線を赤羽川沿いにさかのぼった場所にある。

志子川の上流には熊野古道「ツヅラト峠」の登り口があり、ここで「ツヅラト峠を守る会」が休耕田を開墾して「ツヅラト花広場」を整備した。「ツヅラト峠を守る会」は広場の「もてなし小屋」であおさ汁をふるまうなど都市との交流を進めるほか、ツヅラト峠の清掃活動などにより、ツヅラト峠の美観を守っている。

里づくりのきっかけ

昭和の初め頃まで生活道として使われたツヅラト峠は、伊勢と紀伊の国境にあり、伊勢から熊野へ向かう際にはじめて海を望む峠である。昭和 45 年、峠の石畳道が紀伊長島町の指定文化財となり、地域の中で、この峠道を守らなければという意識が芽生えた。昭和 49 年の七夕豪雨で石畳が土砂に埋まるなど被災したが、地域の有志が翌年から復元作業を始めた。

過疎化、高齢化が進む中、地域が一体となって地域を盛り上げていこうと、平成 7 年、回覧板をまわして、「通いなれた生活の道を復活しよう」と呼びかけ、公民館活動で峠道の復活作業が本格始動した。

里づくりの経過

昭和 45 年	ツヅラト峠の石畳道が紀伊長島町の指定文化財となり、地域の中で、この峠道を守らなければという意識が芽生える。
昭和 49 年	七夕豪雨でツヅラト峠が被災。翌年より、有志が復元作業を始める。
平成 7 年	回覧板で「ツヅラト峠の復活」を呼びかけ、志子公民館活動として復活作業を開始。45 名が年会費 500 円を払って、ボランティアで参画。
平成 8 年	竹やぶになっていた登山口の休耕田で、手作業で開墾作業を開始。
平成 10 年	１町７反の休耕田に、「コスモス」「菜花」を植え、「ツヅラト花広場」が完成。「花広場」に「もてなし小屋」を整備。県が、この広場に「東屋」と「トイレ」を整備。
平成 11 年	東紀州地域で東紀州フェスタが開催され、峠道を歩く観光客が急増。 「ツヅラト峠を守る会」が発足。「もてなし小屋」にて、青さ汁のふるまいや、魚と飲物の販売を開始。収益を次のもてなしの資金に充てる。
平成 12 年	ビオトープ（めだかの分校、ホテイアオイ池）を整備。
平成 14 年	三重県中山間ふるさと・水と土保全基金による事業「ふるさと保全パートナー連携事業」に取り組み、県内外から募集したパートナーと交流イベントなどを実施。この事業をきっかけにして、「ツヅラト峠を守る会」の会員が地域外に広まった。現在会員は 75 名となっている。
平成 15 年	高菜の栽培と加工を研究し、めはりずしを商品開発して、「もてなし小屋」での販売を開始。
平成 16 年	熊野古道が世界遺産登録。

現在の活動

■ツヅラト花広場の整備

ツヅラト峠の登り口では、1.7ha の休耕田を開墾して、年に２回、「コスモス」と「菜花」が咲く「ツヅラト花広場」を整備。「もてなし小屋」では、観光バスが３台以上まとまって来る際に、「おもてなし」を実施。青さ汁のふるまいや、めはり寿司などを販売。

花広場には、ビオトープ（「メダカの分校」と「ホテイアオイ池」）もある。

■ツヅラト峠の清掃活動

ツヅラト峠の復活作業は完了しており、ゴミ回収など清掃活動や、登り口から国道までの草刈り作業を実施。

■守る会特製「めはりずし」

栽培から漬け込み、味付けまで手作りのたかな漬けを使っためはりずしを、花広場の「もてなし小屋」で販売。

苦労話

「何でそんな無駄なことをするのか」との声もある中、竹やぶや石の多い荒れた農地を開墾する作業が大変だった。現在では、搾油用に切り替えた菜花が鹿の害に遭うなど、獣害が悩みの種。

活動のポイント

- 公民館活動からスタートして、地域が一丸となって取組みを進めてきており、高齢者の生きがいづくりの場になっている。また、地域の小学生も活動に巻き込み、若い世代に活動がつながっている。また、パートナー連携事業をきっかけに、「ツヅラト峠を守る会」のメンバーは、地域外にも広まっている。
- 行政などからの助成金にはなるべく頼らず、めはりずしの販売などの収益を活動経費に充てるという方針を持っている。

将来の展望

ツヅラト峠を歩くお客さんを町へつなぎ、地域を活性化していきたい。そのため、山と町との連携を模索している。守る会会長の谷氏は平成 16 年発足の「魚まち歩観会」に参加し、ツヅラト峠から魚町をつなぐ案内板の製作を担当。町の陶器のサークルと連携し、手づくりの陶板製・町名表示板（まんぼう陶板）を設置している。

連絡先

ツヅラト峠を守る会

住所：北牟婁郡紀北町紀伊長島区島原

電話：05974-7-0768

http://www.ztv.ne.jp/web/kumanokodo/

ブルーツーリズム実行委員会（熊野市（市役所水産・商工振興課内））

漁業者と行政が両輪となって交流事業を実践中！

里の概要

熊野市は、三重県南部に位置し、北西部は標高 500 メートルを超える山々が縦横に連なり、東南部は熊野灘に面している。平成１７年１１月１日に紀和町と合併し、現在人口は２１，０００人余。

温暖多雨な気候と市の面積の 87 パーセントが山林という地形から、古くから木材生産地として知られ、農業では、温暖な気候条件を活かしたみかんの栽培が盛んで、この地域の特産品となっている。また漁業では天然の良港と漁場に恵まれ、定置網漁業や敷網漁業などが盛ん。

ブルーツーリズムの中心地域である遊木町、新鹿町は、新鹿湾に面した７５０世帯１，５００人の半農半漁の集落で、古くからサンマ漁を中心に栄えてきた。しかし近年の魚価低迷と漁獲量の減少、高齢化および後継者不足等により最盛期には28 あったサンマ船が現在では10 隻にまで減少している。

里づくりのきっかけ

上記のような漁業不振の状況の中、漁業者等の新たな収入の手段として、体験漁業の事業化を検討した市がＨ１６年度にブルーツーリズム実行委員会を立上げ、漁業者等のグループに対して働きかけ、取組みが始まった。

里づくりの経過

Ｈ１６	ブルーツーリズム実行委員会設立（市役所水産・商工課内）
	漁村活性化推進事業取組み（二木島地区において漁業者を中心とした体験事業実行組織を立上げ、給餌体験・遊覧等の体験プログラムを通したイベントを実施、その他研修会、パンフレットの作成、ブルーツーリズム実行委員会のＨＰ立上げ等を実施）
Ｈ１７	漁村活性化推進事業取組み（新鹿・遊木地区においてケンケン漁・タコかご漁、海鮮バーベキュー等の体験プログラムを通したイベントを実施。パンフレット作成、先進地視察実施。）
Ｈ１８．３	漁業者を中心とした体験事業等実行組織「遊木　海と自然のクラブ」（現在：船主１２名＋地域の方）を設立。
Ｈ１８	漁村活性化推進事業取組み（二木島、新鹿・遊木地区で取組んでいる体験事業のＰＲ、新規実行組織の設立検討、イベント実施等）

現在の活動

■「遊木　海と自然のクラブ」

ケンケン漁（船を走らせながら疑似餌で魚を釣る漁法）、タコかご漁（えさを入れたかごを海底に仕掛け、タコや魚を取る漁法）と海鮮バーベキューの体験が軌道に乗りつつある。

当初は市が先導して活動していたが、H18 年度は、ＰＲ活動・営業活動を除き市の助成を受けずに同クラブが自主運営する形をとっており、11 月までに 157 人の参加者を集めた。

また最近では自ら新規プログラムを企画し、チラシの作成・配

布や独自のＨＰ立上げも行っており、ひと夏に１０万円/隻の売り上げを目指して取組んでいる。

一方、ブルーツーリズム実行委員会では、近隣の教育委員会や旅行会社等への営業やメディアに対する資料提供等、漁業者では対応が難しい部分を担い、体験プログラムの利用者の増大を図っている。

活動のポイント

新鹿・遊木地区の取組みが軌道に乗りつつあるのは、まず、体験プログラムそのものに大きな魅力があり、お客さんを呼べる素材であったこと。次にとにかくお客さんを入れて体験を受入れさせたことによりインストラクターや受入組織としての意識が醸成されたこと。最後に漁業者以外にも同地区の住民がチラシの作成等を担うなど、地域の取組みとして浸透していることがポイントと考えられる。

苦労話

漁業者の方をやる気にさせるための、とっかかりの部分が難しかった。最初はあまり重い話しにせず、ダメだったら止めたらいいくらいの話しとして、とにかくやってもらうことだと思う。

「遊木　海と自然のクラブ」に関しては、現在はほとんどの部分を自分達でしっかり動いているので、ブルーツーリズム実行委員会として苦労していることと言えば営業くらい。営業はこれまでに経験も無く、どうしたらこの体験の魅力を相手に伝え、誘客に結び付けられるか分からず今でも苦労している。

将来の展望

「遊木　海と自然のクラブ」では春の時期の体験プログラムとして、自分達で「サラタケイカ釣り」を企画し、Ｈ１９年春から実施する。

ブルーツーリズム実行委員会としては、まず「遊木　海と自然のクラブ」のお客さんを増やし、安定して運営できるようにすることが大切と考えており、営業活動を継続する。そのための手段として、市内のホテル等の宿泊客に漁業体験を利用してもらう仕掛けを検討している。

ここが完全に軌道に乗り、受入れが飽和状態になれば近隣の漁村での受入れ体制の整備が必要と考えている。

連絡先

ブルーツーリズム実行委員会（熊野市役所水産・商工課内）

住所：〒５１９－４３９２　熊野市井戸町７９６

電話：０５９７－８９－４１１１（内線４７２）

URL：http://web.kumadoco.net/marine/（ブルーツーリズム実行委員会）

http://yukibluetourism.hp.infoseek.co.jp/（遊木　海と自然のクラブ）